

約東イタシ、則元龜二年ニ町割ヲナシ、國々所々ヨリ集候モノ同國一所ニ置其國ノ名ヲツケ、豐後町、大村町、平戸町、五島町ナド、名ツケ、町ノ頭人定、今ノ町年寄ノ先祖是也、

〔長崎港草自序〕夫長崎舊名深江浦、其爲地也、在極西偏陬、而民僅耕山田、漁海濱、以爲生計爾、元弘三年、長崎勘解由左衛門、辟兵亂而來、僭領此地、其十二世裔甚左衛門賴純之時、因氏更名長崎焉、而永祿元年、明船來、舟最鉅大、多載貨財、以求交易、事以聞于京、將軍源義輝卿、命小島備前守、監其事、小島氏、振威無憚、於是乎長崎氏、狼之夜、襲殺之、奔于筑後、當斯之時、長崎無邑主、元龜元年、蕃舶初來、斯定交易場、同二年、有馬修理大輔、大村理專、與長崎之邑長等議、建六街、以便交易、然後蕃舶歲來、四方商賈群集、日作塵鋪、爲廿三街、聿開繁華之區、於是蕃人邪徒、自建寺觀、居之、教以左道、發惑、以長崎爲己之有、而天正十五年、太閤豐臣公、驅逐邪徒、鍋島氏、寺澤氏、相繼兼攝、文祿元年、村山東安承、豐臣公之命、更建數十街、共爲八十街矣、慶長八年、東照神君、改置鎮府、寬永十八年、置東西兵衛、以制邊寇、從是以來、庶民就安、物各得其所、融朗之化、至今益盛也矣、○下

〔采覽異言一〕ポルトガル 波爾杜瓦爾○中

西蕃之來、自此國始、○中 元龜元年、庚午春、至肥前國、求以互市、置場於彼杵海口、兼演其教法、今長崎港卽此、

〔長崎夜話草〕黑船入津始之事

元龜元年、庚午の歲にや、南蠻の黒船一艘、津の外の西浦、福田といふ所に漂ひ來りて、荷物など賣買ぬる次に、深江の湊を見て、是こそ世界一の湊よと悦び、來年よりは此津に來るべしと約束してかへりぬ、是に依て元龜二年三月に、大村領主の家臣、友長氏なる者に仰せて、諸國商人の旅宿なくしてはどて、地割ありて、高來、大村、平戸所々の商人、家宅を營み建つる事五六町なりし、案のごとく其年の夏、亞媽港より黒船二三艘、數千貫目の商物とり積來りぬ、是より年ごとに絶ず、五